

## 終糸脂肪腫に対する低侵襲手術

脊髄の末端部は円錐状に細くなり、尾骨につながる終糸に移行します。終糸に脂肪が沈着すると成長に伴い脊髄が牽引され脊髄係留症候群の原因となることがあります。失禁や便秘などの膀胱直腸障害、下肢の痛み・痺れや感覚障害、運動障害や足の変形など、症状が出現している場合には手術が必要です。また、脊髄が下方へ牽引されている場合、終糸が太い(2mm以上) 場合にも手術治療を検討します。手術は終糸の切断ですが、当科では低侵襲手術により術直後より安静度制限はなく術後2日目に退院としています。

